

---

## 家庭科教育部会

---

### I 研究の内容

1 「衣生活」の研究を進めるにあたっての研究の柱を昨年同様以下の3つとした。

(1) 基礎・基本の定着

ア 目標とする姿を設定し、自己評価をさせていく。

イ 適切な自己評価ができるように、ワークシートを工夫していく。

(2) 生活に生かせる工夫を取り入れた作品づくり

ア 誰が、いつ、どんな場面で使うのか等の作品の活用場面を考えることで、必要となる工夫を作品づくりに反映させる。

イ 作品づくりで、生徒が工夫できそうな内容を教材化しておく。

(3) 言語活動の充実

ア 班での話し合い活動を意識的に取り入れていく。

イ 自分の考えを書き込むことができるように、ワークシートを工夫していく。

### 2 具体的内容

昨年度までに作成した視覚教材や実践してきた授業を活用しながら、以下の内容に取り組んだ。

(1) 指導時間の見直し

「衣生活に関わる指導」の総時間数を21時間とし、それぞれの学習活動に必要な時間の見直しをおこなった。

(2) 指導と評価の計画の作成

指導時間21時間について、学習目標と評価項目等を確認し、一覧表にまとめた。

(3) ワークシートの検討

ア 学習目標にてらしあわせ、ワークシートの作成・検討をおこなった。

イ 目標とする姿を設定し、自己評価ができるように工夫した。

ウ 必要に応じて、自分の考えを書き込むことができるように、スペースを設けた。

(4) 振り返りカードの作成（自己評価表）

ア 学習の軌跡が分かるように、毎時間の振り返りを1枚の用紙にまとめた。

イ 「衣生活全体」と「リバーシブルバックの製作」の2種類を作成した。

(5) 学習指導案の作成

(6) 授業実践（山梨北中 向山栄子教諭）

「生活を豊かにするバック作り ～活用ポケットのデザインを発表しよう～」

ア 昨年度の授業実践の反省をもとに、改善を加えた授業を実施した。

イ 便利ポケットのデザインについて、思考の過程がわかるようにワークシートを工夫し、1枚にした。

ウ 班編成を3～4人とすることで、発表やアドバイス・再検討の時間確保を行った。

エ 大型テレビ等の視聴覚機器の有効活用を考えた。

## II 成果と課題

### 1 成果

- (1) 「衣生活に関する指導」全体に目を向け、昨年までの研究で作成してきた視覚教材や授業実践の成果を結びつけながら、総時間数の21時間を構成することができた。
- (2) 指導計画を見直すことで、1時間1時間のねらいが明確になり、ねらいを達成するためのワークシートや学習指導案を作成することができた。
- (3) 振り返りカード（自己評価表）を改善した。このため、生徒達は授業を振り返り、授業でわかったこと・できるようになったこと、製作でうまくいかなかったのはなぜかなど、自分の言葉で記入することで考えが深まり、改善・工夫しようとする様子が見られるようになった。
- (4) 基礎縫いや製作の計画に時間をかけたことで、生徒達は見通しを持ち、製作に自信を持って取り組むことができるようになった。
- (5) 部会員全員で「衣生活に関する指導」の21時間を検討したことで、題材をどのように展開していったらよいかを、見通した授業実践ができるようになった。

### 2 課題

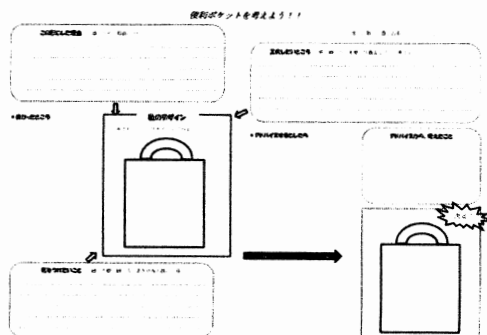
- (1) 生徒達は作品の製作に対して、様々な思いやアイデアを持っている。その思いをデザインに書かせ製作を行うが、作品をイメージ通りに仕上げるためには、どのような支援や教具が必要かをさらに検討し、授業の工夫改善をおこなっていきたいと考える。このために、振り返りカード（自己評価）の有効活用も考えていきたい。
- (2) 「衣生活に関する指導」の21時間を検討し、授業実践を始めたが、日々の実践をおこないながら工夫改善を加え、さらにより良いものにしていきたいと考える。

## III 成果物

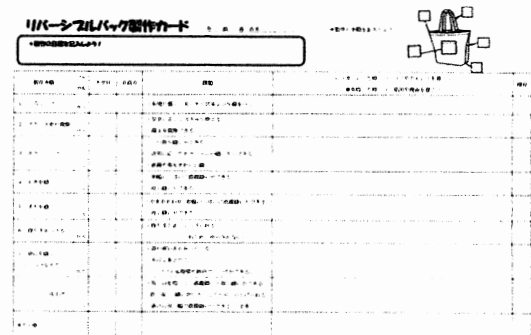
- 1 授業案「生活を豊かにするバック作り ～活用ポケットのデザインを発表しよう～」
- 2 「衣生活に関わる指導」総時間数21時間の指導と評価の計画
- 3 「衣生活に関わる指導」総時間数21時間の学習指導案
- 4 「衣生活に関わる指導」総時間数21時間のワークシート
- 5 振り返りカード（自己評価表） 2種類

<成果物の例>

#### (1) 授業実践時のワークシート



#### (2) 振り返りカード（リバーシブルバックの製作）



( 部長 鈴木美奈子 )